

2月 令和6年2月1日 ちびっこの森通信 vol.219

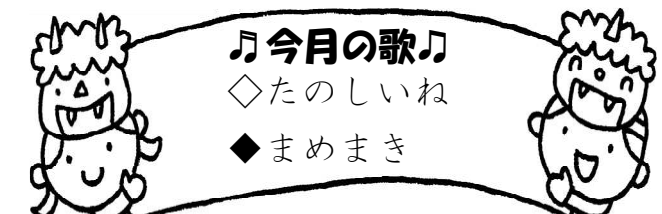
☆☆今月のテーマ☆☆

- ・節分の由来や鬼の話などに興味をもち、豆まきを楽しむ
- ・季節の移りかわりで自然に触れ合い、その変化に目を向けながら元気に遊ぶ



～今月の園内学習～

- ・足し算…5の段
- ・掛け算…5の段
- ・数字カード…1～20の数字
- ・食べ物カード…今月の旬な食べ物
- ・漢字カード…小学校1学年で習う漢字30
- ・歴史カード…「藤原鎌足」ほか
- ・ひらがなカード…「あ行」
- ・国旗カード…日本ほかアジア各国
- ・地理カード…広島県ほか中国地方
- ・声に出して読みたい日本語…論語ほか
- ・英会話…動物、曜日、季節の種類
- ・絵画カード…「真珠の女」他
- ・魚への漢字…「さより」「さわら」
- ・木への漢字…「ぶな」「ほお」



♪今月の歌♪
たいのしいね
◆まめまき



- ### ～行事予定～
- ・書道教室…8日・22日
 - ・お誕生日会…29日
 - ・英語教室…7日
 - ・避難訓練…28日
 - ・身体測定…21日
 - ・音楽教室(三味線)…26日
 - ・リミック…20日〔少〕・1日〔中・長〕
 - ・体操教室…9日〔少〕・19日〔中・長〕
 - ・発表会…17日
 - ・節分会…2日

～保育のポイント～

脳に関する考察が随分と進み、生まれたての赤ちゃんの脳は400グラム(成人は1400グラムくらい)、1千億個の神経細胞から成っていることが分かってきました。諺「三つ子の魂百までも」やイタリアのモンテッソーリ女史の「胎生的吸収精神」の「大人はもう失っているが、これは神様の創造力にも比すべき非常に不思議な力で、赤ちゃんが生まれ落ちた環境から刺激を受け、環境に適合する素質を身につけるなどして用がすめば、急速に消えていく」は、赤ちゃんから3歳くらいまでの漠然とした驚異的な吸収力と表したものであると知られています。このことを脳科学的に解明すると、脳の神経細胞が当初の数から落ち着いた数になり、(言葉など)外部からの刺激に対応して神経細胞同士が繋ぎ合わされて対応できるようになる作業(脳の可塑性)が最高潮に達すると共に、神経細胞同士を繋ぎ合わせる神経線維に(グリア細胞という膜)絶縁膜が張りつけられることによって情報処理が正確に行われる脳の構造がほぼ出来上がるのがこの時期だと分かってきたことから理解できることとなってきました。こうして脳の伝達スピードが速まり、脳の情報処理能力がそれまでに比べて格段に高まった結果、コンピュータでいえば、「ハードウェア」にあたる部分が完成した、ということになります。ですから、その頃に覚えたことは決して忘れることはないという意味で諺を裏付けることに繋がっていますし、人間の基礎づくりで大事な時期の養育環境を再考する一助になればと思います。～わらべうたがこどもを救う(大島清著)及び赤ちゃん・幼児の知力と才能を伸ばす本(七田眞著)より抜粋～



さくら組だより



年末の大掃除のおかげで保育室は見違える程にピッカ、ピカとなり、趣きも新たに令和6年がスタートし、みんなは園に登園するなり楽しかったお正月の土産話で盛り上がっていました。年初めは園恒例の凧揚げ、福笑いや駒回しなどの古来から伝承されているお正月遊びをしました。凧は和だこは揚げるのに苦労しましたが、洋風カイトは比較的容易に揚げることができ歓声が上がる程、盛り上がりを見せていました。昔ながらの紐で回す駒回しは「どうやるの?」と戸惑いがちでしたが、やり方が分ると「ははぁ～ん」と納得顔ながらも、悪戦苦闘の連続でグルグルとまではいきませんでした。また、体操教室の縄跳びは当初のになっちもさっちもいかないう状態から何とか形になる物になっているので頑張ってもらい、これからもいろんなことに挑戦して欲しいと願っています。



ひまわり組だより



年始は代わり番この寒暖差が悩ましいところなり、季節性の感染症の流行がかなり心配されましたが、何とか乗り越えることができホッと一安心です。保育始めから、みんなはぶんぶんゴマ、ペットボトル製けん玉、カルタ、福笑いにお手製の獅子舞でそれぞれ楽しみました。特に、凧揚げは昔のようにみんなにとって馴染みのあるものではなく、簡単には揚げれない状態でしたが、何度か挑戦していく内にコツを覚えて揚げるのでした。避難訓練は消防士の見守る中、実践して日頃の様子を見て指導していただきました。毎月、こどもたちが取り組んでいるのでお約束(「お・は・し・も」)も守り、実践できていたのは何よりでした。今月の発表会に向け、みんなは時間を見て精力的に練習していますので本番を乞うご期待下さい。



ゆり組だより



ゆり組のみんなは2024年の幕開けと共に園生活の最後の仕上げとばかりに意気込みも新たにスタートしました。まずは、昨年度から始めた毛筆遊びでコツを覚えてきていることから書道教室での書き初めは筆の持ち方、筆運びの加減なども順調で、今年の干支「たつ」を一人ひとりがダイナミックに書き上げていました。就学準備で昨年10月よりお昼寝なしの生活リズムへの転換と同時に、ひらがなや数字のなぞり書きに加え、さらにワークシートで読み書きに磨きをかけるべく頑張っています。その他にも、当初はあれだけ「難しい!」と敬遠がちだったのが今やその日が待ち遠しいといった鍵盤ハーモカの練習となっていますので発表会で聞き惚れるくらいの演奏会を披露できそうです。絵の具活動では回を重ねるごとに単色から混色、その濃淡の使い分けなどのスキルを駆使して思い描くイメージの絵を描いています。みんなが自信をもって就学期を迎えられるように残り2ヶ月、根気よくきちんと仕上げを図っていきたいと思います。



～季節の変わり目の強い味方～



節分とは文字通り、立春、立夏、立秋や立冬の前日を指し、季節の分かれ目を指します。なかでも、古来より一年のはじまりの元旦のように「立春」前日の節分が特に大切とされたことを受け、その風習が現在では受け継がれています。食事や医療も十分とは言えない昔は病気や災害など悪いものは全て「鬼」の仕業とされ、大豆などは「穀霊」と呼ばれる精霊が宿るものと信心されたことから(悪いこと=)鬼退治に最適とされ、豆(魔の目に豆をぶつけ、魔を滅ぼす、の魔滅(まめ))まきに使用されてきています。季節の変わり目は体調を崩しやすいのでこのような風習が続いているわけですね。特に、冬から春へとそんな季節の移りかわりに元気に過ごすためには栄養価の高い旬の食材を取り入れていくのが肝要と言えます。まずは、エネルギー源であり、ビタミンCやむくみ予防のカリウム、食物繊維豊富で便秘解消に役立つ「新じゃが」や「タケノコ」が挙げられ、ポテトサラダや煮物や天ぷらなどで舌鼓を打つことができます。また、カリウムやマグネシウムなどのミネラルやビタミンB群を含む「菜の花」はお浸しや炒め物がお勧め。他にも、葉がしっかりと巻かれた冬キャベツは免疫系の働きを支えるビタミンCを豊富に含み、煮崩れしないためにロールキャベツなどの煮物に最適。野菜以外の旬の美味しい食材として「ヒラメ」や「はまぐり」などもあり、畑の肉の大豆などと組み合わせ摂取することで寒暖差のある時季の体力維持や増強に最適だと思います。季節の変わり目をしなやかで元気に過ごしていくようにしましょう。